

Agentless Management Service (AMS) を ご使用時の注意事項

iLO 7 を搭載した Express5800 シリーズおよび iStorage NS シリーズでは、Agentless Management Service (以下、AMS) は iLO 仮想 NIC (VNIC) を用いて iLO と通信します。iLO 仮想 NIC (VNIC) 経由の通信には、iLO のアプリケーションアカウントが必要です。

アプリケーションアカウントの作成を行わない場合、OS 起動時 (サービス開始時) ごとに iLO アカウント情報 (ユーザー名、パスワード) を設定する必要があります。

Standard Program Package を適用後 (または AMS インストール後) に、以下の手順でアプリケーションアカウントを作成してください。作成後は、後述の手順に従って AMS の利用状態を確認し、AMS が『OK』と表示されていることを確認してください。

過去にアプリケーションアカウントを作成済みの場合でも、Standard Program Package 適用後 (または AMS インストール後) は必ずアプリケーションアカウントを再作成してください。

＊ ＊ ご注意 ＊ ＊

- ✓ iLO Web インターフェイスのアプリケーションアカウントメニューからアプリケーションアカウントの削除 (ゴミ箱アイコンの押下) は、トラブルシューティング以外の目的では実施しないでください。
アプリケーションアカウント情報の不整合が発生し、AMS が正しく動作できなくなる可能性があります。
- ✓ OS を再インストールする場合は、事前にアプリケーションアカウントを削除した上で、OS を再インストールしてください。詳細は後述のトラブルシューティングをご確認ください。

0. 事前準備 (TPM Visibility の設定)

本アプリケーションアカウントは、アカウント情報を安全に保存するため、Trusted Platform Module (TPM) を使用します。そのため、アプリケーションアカウントを作成する前に、以下の設定を実施してください。

<iLO_username>および<iLO_password>には、iLO アカウント情報 (ユーザー名、パスワード) を入力します。

- (1) POST 実行時、<F9>キーを押下し、System Utilities を起動します。
- (2) System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Server Security > Trusted Platform Module Options > Advanced Trusted Platform Module Options へ進みます。
- (3) 以下のオプションを『Visible』に設定します。

TPM Visibility : Visible

- (4) <F10>キーまたは<F12>キーを押下して設定を保存し、システムを再起動します。

1. アプリケーションアカウントの作成

amscli コマンドを使用して、アプリケーションアカウントを作成します。

(1) 以下を実行し、アプリケーションアカウントの作成を行います。

- Windows OS の場合：

コマンドプロンプトを開き、「C:\Program Files\OEM\AMS\Service」へ移動し、次のコマンドを入力し実行します。

```
# amscli appaccount create -u <ilo_username> -p <ilo_password>
```

- Linux OS の場合：

コンソール端末を開き、次のコマンドを入力してください。

```
# amscli appaccount create -u <ilo_username> -p <ilo_password>
```

- VMware ESXi / ESX OS の場合：

ESXi / ESX Shell より、次のコマンドを入力し実行します。

```
# /opt/amsv/bin/amsvCli appaccount create -u <ilo_username> -p <ilo_password>
```

(2) プロンプトに戻り、以下のメッセージが表示されていることを確認します。

- Windows OS、Linux OS、VMware ESXi / ESX OS 共通：

Account created Successfully.

または、

Application account successfully created in iLO and stored in TPM.

(3) iLO Web インターフェイスにて、アプリケーションアカウントの登録内容を確認します。

- 左メニューより「iLO 設定」を選択し、「ユーザー管理」 - 「ユーザー」へと進み、アプリケーションアカウントにアプリケーション名「AMS」が登録されていることを確認します。



iLO Web インターフェイスのアプリケーションアカウントメニューからアプリケーションアカウントの削除（ゴミ箱アイコンを押下）はトラブルシューティング以外の目的では実施しないでください。
アプリケーションアカウント情報の不整合が発生し、AMS が正しく動作できなくなる可能性があります。

(4) AMS の利用状態を確認します。

iLO 仮想 NIC（vNIC）を使用して、AMS と iLO が通信可能であることを確認します。

- 左メニューより「ダッシュボード」を選択し、ホストの概要にて、AMS が『OK』と表示されていることを確認します。



＊ ＊ご注意 ＊ ＊

AMS の状態が『OK』になるまで、数分から数十分かかる場合があります。
数十分待っても AMS の状態が『OK』に遷移しない場合は、以下の手順をお試しください。

iLO リセット

AMS サービスの再起動

OS 再起動

< iLO リセットを行う方法 >

左側のタブより「iLO 設定」-「クイックアクション」の「iLO をリセット」を実行します。

< AMS サービスの再起動を行う方法 >

- Windows OS の場合：

Windows の管理ツール サービス 「Agentless Management Service」を右クリックし、再起動します。

- Linux OS の場合：

以下のコマンドを実行します。

```
# systemctl restart smad
```

```
# systemctl restart amsd
```

- VMware ESXi / ESX OS の場合 :

以下のコマンドを実行します。

```
# /etc/init.d/amsv restart
```

トラブルシューティング

1. アプリケーションアカウントの作成時、応答がなくプロンプトに戻らない。

< 対処方法 >

iLO 仮想 NIC (VNIC) が有効になっているかをご確認ください。

iLO 仮想 NIC (VNIC) の確認方法については、iLO7 ユーザーズガイドを参照してください。

2. アプリケーションアカウントの作成時、下記のメッセージが表示された。

Application account successfully created in iLO and stored in TPM.
However, AMS service could not communicate with iLO using the generated Application account.
Therefore, AMS service will temporarily use the supplied iLO credentials.
iLO credentials may need to be supplied again when the application and system restarts.

< 説明 >

アプリケーションアカウントの作成には成功しましたが、作成したアプリケーションアカウントを使って、iLO と通信できていない状態です。この場合、作成時に入力した iLO の認証情報を使って一時的に iLO と通信可能になりますが、OS を再起動した場合は、iLO との通信が行えず AMS が利用できなくなります。

< 対処方法 >

(1) iLO Web インターフェイスのアプリケーションアカウントにある『AMS』をゴミ箱ボタンから削除します。

(2) OS 上で以下のコマンドを実行し、アプリケーションアカウントを削除します。

- Windows OS の場合 :

```
# amscli appaccount delete
```

- Linux OS の場合 :

```
# amscli appaccount delete
```

- VMware ESXi / ESX OS の場合 :

```
# /opt/amsv/bin/amsvCli appaccount delete
```

(3) アプリケーションアカウントを再度登録します。

3. アプリケーションアカウントの作成時、下記のメッセージが表示された。

Application account creation failed.
Therefore, AMS service will temporarily use the supplied iLO credentials.
iLO credentials need to be supplied again when the application and system restarts.

< 説明 >

アプリケーションアカウントの作成に失敗し、iLO と通信できていない状態です。作成時に入力した iLO の認証情報を使って一時的に AMS が利用可能となる場合もありますが、OS を再起動した場合は、iLO との通信が行えず AMS が利用できなくなります。

< 対処方法 >

- (1) iLO Web インターフェイスのアプリケーションアカウントにある『AMS』をゴミ箱ボタンから削除します。
- (2) OS 上で以下のコマンドを実行し、アプリケーションアカウントを削除します。

- Windows OS の場合 :

```
# amscli appaccount delete
```

- Linux OS の場合 :

```
# amscli appaccount delete
```

- VMware ESXi / ESX OS の場合 :

```
# /opt/amsv/bin/amsvCli appaccount delete
```

- (3) アプリケーションアカウントを再度登録します。

4. TPM Visibility の設定を『Hidden』に設定したい。

< 対処方法 >

- (1) 本アプリケーションアカウント機能は『Visible』に設定することが必須条件です。
- (2) 『Visible』設定にできない場合は、OS 起動ごとに以下のコマンドを実行してください。

- Windows OS の場合 :

```
# amscli set -u <ilo_username> -p <ilo_password>
```

- Linux OS の場合 :

```
# amscli set -u <ilo_username> -p <ilo_password>
```

- VMware ESXi / ESX OS の場合 :

```
# /opt/amsv/bin/amsvCli set -u <ilo_username> -p <ilo_password>
```

5. RBSU : TPM 2.0 Operation の設定の『Clear』を実行した。

アプリケーションアカウント情報の不整合が発生し、AMS が正しく動作できなくなる可能性があります。

< 対処方法 >

- (1) iLO Web インターフェイスのアプリケーションアカウントにある『AMS』をゴミ箱ボタンから削除します。
- (2) アプリケーションアカウントを再度登録します。

6. BMC Configuration Utility : 『Set to factory defaults』を実行した。

アプリケーションアカウント情報の不整合が発生し、AMS が正しく動作できなくなる可能性があります。

< 対処方法 >

(1) OS 上で以下のコマンドを実行し、アプリケーションアカウントを削除します。

- Windows OS の場合 :
amscli appaccount delete
- Linux OS の場合 :
amscli appaccount delete
- VMware ESXi / ESX OS の場合 :
/opt/amsv/bin/amsvCli appaccount delete

(2) OS 上でアプリケーションアカウントを再度登録します。

7. OS を再インストールしたい。

OS の再インストールを行う場合は、以下の方法でアプリケーションアカウントの削除を実施後、OS の再インストールを行うようにしてください。OS の再インストール後に、再度アプリケーションアカウントを作成してください。

< 対処方法 >

(1) iLO Web インターフェイスのアプリケーションアカウントにある『AMS』をゴミ箱ボタンから削除します。

(2) OS 上で以下のコマンドを実行し、アプリケーションアカウントを削除します。

- Windows OS の場合 :
amscli appaccount delete
- Linux OS の場合 :
amscli appaccount delete
- VMware ESXi / ESX OS の場合 :
/opt/amsv/bin/amsvCli appaccount delete

(3) OS 再インストール後、アプリケーションアカウントを再度登録します。